

平成24年度 第1回被服学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年6月4日（月） 18時00分から20時00分まで

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：山口恵子委員、伊佐治せつ子委員、田中早苗委員、軽部幸恵委員、鈴木美和子アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議 題：①被服学教員に期待される学識
②教育改善モデル実現に求められる教育力

1. 議事概要

議事に先立ち事務局より参考資料に基づいて以下のような説明があった。

学生が主体的、能動的に勉強する時間が少ないので、これを改善するための大学の工夫が必要である。大学の目標と個々の授業との関連付けを明確にし、教員が連携して授業をする組織的な教育が必要。授業の統合化などにより科目数を調整することで、学生の学習時間を確保する。大学としてガバナンスを発揮した改善が必要。地域に即したイノベーションを生み出すための技能を身につけさせるために高いレベルで授業を展開する。今後の検討課題として、①各大学における学生の学習実態の把握 ②質を伴った学習を行わせるための方法や施策 ③教員の教育力向上のための方法や施策 ④学習成果の達成度の把握 ⑤ガバナンスマネジメントのあり方 などが挙げられる。

学習時間には日米で大きな差があり、これが日本の大学教育の評価を下げる一因とも言える。勉強時間の充実をきっかけに教育の質を高めることができるように、国がこのような取り組みに対して財政支援する動きがある。また、国立大学の統廃合による再編が決定、私学には質的变化を伴う学習時間の確保が要求されるであろう。大学の授業では、例えば、社会人を招いて、実社会で働くことへの理解を促す、社会の厳しさを体感させる、課題解決の方法などを学生に考えさせることなどを行う必要がある。このような実践教育によって学習意欲が高まるという教育効果も表れている。

学習意欲、基礎学力が低い学生に照準を合わせるのではなく、高いレベルに合わせた新しい授業を実施するために、教員の教育力をいかに高めていくかを考えなければならない。そのためには、教員が、学問を通じてあるいは人材育成を通じて社会を変革するという使命感を持つ。国際的な潮流を自覚する。そして、学生に気づきをもたらす力、授業をコーディネートする力 科学的根拠に基づいた課題発見、課題解決する力を持たなければならない。

議題についてフリートーキングで意見を出し合い、最後にまとめてほしい。

「被服学教員に期待される教育力とは」というテーマでフリートーキングが行われた。キーワードとして、「国際的、倫理観、責任感、使命感」などが挙げられた。精神的な充足感を与える力、生活を豊かにする力を衣服が持っているということを教員が理解し、それを学生に教える責任感が教員にはある。これらのことから「被服学教員に期待される学識」として、以下の5つが挙げられた。

- ①精神生活を豊かにする衣生活の重要性を伝える責任感と使命感を有していること。
- ②我が国および世界の現状について、総合的に考える能力を有していること。
- ③衣服の課題を通じて科学的な根拠に基づいてイノベーションする能力を有していること。
- ④教員間、産業社会との連携をコーディネートできる能力を有していること。
- ⑤ICTなどの教育技法を駆使して、実践的な教育指導ができる能力を有していること。

また、議事にはなかったが、すでに決定した「被服学教育における教育改善モデル（その1）」について再検討され、それぞれ太字部分を追加し、以下のように改められた。

- ・「1. 到達度として学生が身につける能力」
 - ③**グローバルな視点**でファッションプレゼンテーションができる。
- ・「2.3 授業にICTを活用したシナリオ」
 - ⑥学習過程をポートフォリオに記録させるとともに、**多元的な**評価結果をデータベース化し、発展的な授業改善につなげる。
- ・「2.4 授業にICTを活用した学習内容・方法」
 - ⑥特徴のある作品をネットに掲載し、他大学や企業などの**グローバルな**外部評価をネット上で受けた結果を踏まえて、創発的な授業に結び付ける。

V. 次回開催日程

メーリングリストで調整して決定する。

以上